



開基120年記念特集

No.12

「北緯45度の大地に生きる動物たち」

撮影・文：富士元 寿彦氏

「恋の季節到来 エゾモモンガ」

暦の上では春の3月になりましたが、エゾモモンガの巣穴がある林は、まだ冬と変わらない雪景色です。が、間もなくエゾモモンガの恋の季節が始まります。



エゾモモンガ夫婦の巣の近くに住むオスの中には、短い時間ですが、昼間から夫婦(メス)の様子を見かたがた、採餌に出ている者も見られるようになります。

夜行性なので、人目に触れる機会が少ないのですが、町内の森林には、エゾリス以上に多いエゾモモンガが住んでいます。

このコラムは今回で終わりですが、紹介しました動物たちを通し、身近にある恵まれた自然に目を向けてもらえますことを願います。

幌延町開基120年を記念して、12回にわたって連載してきた特集「北緯45度の大地に生きる動物たち」は、今月号をもって連載を終了します。ご愛読ありがとうございました。連載にあたり、写真と文章を提供くださいました富士元 寿彦様に、お礼申し上げます。

ほろのべの裏窓

■ 2月は寒波が到来し、日本各地で今季一番の冷え込みとなりました。幌延町も例に漏れず厳しい寒さが続きましたが、さすがというべきか、子どもから大人まで皆さん慣れた様子で、屋外のイベントにもかかわらずエネルギーに過ごされていました。

■ さて、そんな冬の屋外イベントですが、写真を撮っていると、真っ白な雪景色にスキューエアや帽子(と真つ赤なほっぺ)の鮮やかな色が映えて、なんとも楽しい気分になります。お配りしている紙媒体の広報誌では、表紙と裏表紙以外は白黒写真ですが、ホームページ上の広報誌では、全ページの写真がカラーになっていますので、ぜひホームページから広報誌をチェックしてみてくださいね。

● 広報へのご意見、ご要望をお寄せください ●

総務財政課総務グループ

電話 5-1111 / 告知端末機 5-8811

新年俳句会作品

幌延ほおずき俳句会

寒風や先人酌みしもつきり酒
電柱にひとつ年とる寒鴉
寒休みそつと腫れたる手を摩る
寒鴉青き夜空に声を出し
売り出しの目玉のひとつ寒卵
絵硝子の芥子のまぼろし寒日和

横山 貞雄
富樫 堅一
富樫 とも子
熊谷 千恵子
佐藤 光朗
田中 徹男



男 1,184 (-1)

女 1,141 (-4)

計 2,325 (-5)

(平成31年1月末日現在)

※()内は前月比

世帯数 1,243 (±0)

